

日本運動器看護学会を知っていますか？ － JSMN の紹介 －

小林 優子*

Introduction of the Japan Society for Musculoskeletal Nursing : JSMN

Yuko KOBAYASHI*

キーワード：運動器看護，学会認定運動器看護師

Key words : musculoskeletal nursing, japan society musculoskeletal nursing certification

I はじめに

日本運動器看護学会 (Japan Society for Musculoskeletal Nursing 略記 JSMN) は、47の看護系学会により構成されている日本看護学会協議会 (Japan Association of Nursing Academies 以下 JANA とする) (表1)、ならびに、52学会・団体により構成されている看護系学会等社会保険連合 (以下看保連とする) (表2) に名を連ねている学会の一つである。JANA は「看護学の学術的発展をめざす看護系学会の相互交流と連携をはかり、看護学研究成果を社会に還元する学会活動を支援し、また看護学学術団体の立場から、人々の健康と生活の質の向上のため国や社会に向かって必要な提言を行う」ことを目的としており、看保連は「学術的根拠に基づいて、看護の診療報酬・介護報酬体系の適正化を促進すること」をミッションとしている。2つの組織に所属しながら、運動器看護の向上に貢献する学会組織である。折しも、筆者は2021年の第21回日本運動器看護学会学術集会会長を拝命した。そこで、本稿では周知および誘いのために本学会の紹介をさせて

いただく。

II 日本運動器看護学会の紹介

1. 概要

日本運動器看護学会の前身は日本整形外科看護研究会である。日本整形外科看護研究会の発足式は、2000年4月神戸国際会議場で日本整形外科学会の会期中に執り行われた。そして、2011年第11回学術集会終了後に“整形外科看護”研究会という、診療科を標榜する研究会から、“運動器看護”学会に改組・改称され、整形外科看護を運動器看護の中核としながら、「運動器看護とは何か」「運動器看護実践とはどのような実践か」を問いながらの学会活動が開始された。

会員数は600名弱である。当学会会員は、整形外科病棟・外来・専門クリニックでの活動、あらゆる外科系・内科系の外来や病棟、手術室、集中治療室、医療安全対策等の管理部門、リハビリテーション施設、長期療養施設、福祉施設など多種多様な場で活動している。さらに、子どもから高齢者に至るあらゆる年代の方々とそ

*駒沢女子大学看護学部

表1 JANA 会員学会一覧

公益社団法人 日本看護科学学会	日本看護技術学会
一般社団法人 聖路加看護学会	日本看護教育学会
一般社団法人 日本がん看護学会	日本看護診断学会
一般社団法人 日本看護学教育学会	日本看護福祉学会
一般社団法人 日本看護管理学会	日本看護倫理学会
一般社団法人 日本看護研究学会	日本看護歴史学会
一般社団法人 日本救急看護学会	一般社団法人 日本災害看護学会
一般社団法人 日本クリティカルケア看護学会	一般社団法人 日本在宅ケア学会
一般社団法人 日本公衆衛生看護学会	日本手術看護学会
一般社団法人 日本循環器看護学会	日本新生児看護学会
一般社団法人 日本小児看護学会	一般社団法人 日本腎不全看護学会
一般社団法人 日本助産学会	日本生殖看護学会
一般社団法人 日本精神保健看護学会	日本赤十字看護学会
一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会	日本難病看護学会
一般社団法人 日本地域看護学会	日本放射線看護学会
一般社団法人 日本糖尿病教育・看護学会	日本母子看護学会
一般社団法人 日本母性看護学会	日本慢性看護学会
高知女子大学看護学会	日本ルーラルナース学会
千葉看護学会	一般社団法人 日本老年看護学会
日本アディクション看護学会	北日本看護学会
日本運動器看護学会	日本ニューロサイエンス看護学会
日本家族看護学会	日本フォレンジック看護学会
日本看護医療学会	日本産業看護学会
	看護教育研究学会

の家族を対象に、運動器看護を実践し、質の維持・向上に取り組んでいる。一方、教育・研究職にある会員は、基礎看護、小児看護、成人看護、老年看護、公衆衛生看護、在宅看護、看護教育、看護管理など多領域の教育・研究を担っている。

学術集会は年に1回開催され、学会誌は日本運動器看護学会誌が年に1回発行される。学会に改組・改称されてからの学術集会テーマを表3に示した。骨、脊椎疾患などの運動器に関連

するキーワードのほかに、当事者、制度のしくみ、認知症ケア、外来・病棟・在宅といった、多様性に富むキーワードも含まれる。

2. 学会における研究

整形外科看護研究会から運動器看護学会と改組・改称されたものの、学術集会での一般演題数は少なく、学会誌「日本運動器看護学会誌」の発刊も年1回である。最新の学会誌に投稿された論文は、解説6編、研究報告2編、資料1

表2 看護系学会等社会保険連合 加盟学会・団体一覧

日本家族看護学会	高知女子大学看護学会
日本看護科学学会	聖路加看護学会
日本看護研究学会	日本看護管理学会
日本看護診断学会	日本看護学教育学会
日本がん看護学会	日本看護教育学学会
日本救急看護学会	日本看護福祉学会
日本在宅ケア学会	日本災害看護学会
日本手術看護学会	日本赤十字看護学会
日本小児看護学会	日本看護学会
日本助産学会	国立大学病院看護部長会議
日本新生児看護学会	社会福祉法人恩賜財団済生会看護部長会
日本腎不全看護学会	日本訪問看護財団
日本難病看護学会	赤十字医療施設看護部長会
日本母性看護学会	日本小児総合医療施設協議会看護部長部会
日本老年看護学会	国立病院看護研究学会
日本看護技術学会	日本ルーラルナース学会
日本クリティカルケア看護学会	日本精神保健看護学会
日本循環器看護学会	日本緩和医療学会
全国国立病院看護部長協議会	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
日本私立医科大学協会病院部会看護部長会議	日本生殖看護学会
日本脳神経看護研究学会	日本助産学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会	日本運動器看護学会
日本糖尿病教育・看護学会 h	日本ニューロサイエンス看護学会
日本慢性看護学会	日本フットケア学会・足病医学会
日本移植・再生医療看護学会	日本プライマリ・ケア連合学会
日本ヒューマン・ナース学会	日本専門看護師協議会

編である。研究報告は「人工股関節全置換術を実施した高齢患者の術前に抱いた期待が実現された生活に至るまでの体験プロセス」「整形外科診療所に通院する高齢患者の看護へのニーズ」であり、資料は「我が国におけるスポーツ外傷・障害を受けた大学生アスリートの心理的特徴—国内における文献レビュー—」であった。

学会員の多くが臨床看護師であり、学会への期待を、専門家からの up-to-date な話題や、個

人の学習の場としてとらえての参加が目立ち、自らの研究発表の場としてとらえる人が少ない。そこで、学会として、臨床看護師である学会員の研究を支援する体制をとっている。ひとつには、研究助成制度があり1件50万円を上限とした助成をしている。教育・研究職にある学会員とちがい、臨床看護師の学会員は研究費がほとんどない状況であるため、このような支援は重要と考える。しかし、応募者が皆無の年度もあ

表3 日本運動器看護学会学術集会テーマ

開催年	テーマ
2012	エビデンスに基づいた運動器看護の実践
2013	脊椎疾患患者を支える看護
2014	運動器看護の質を高める今日の認知症ケア
2015	外来・病棟・在宅をつなぐ運動器看護
2016	運動器看護の現場に活用できる医療 制度のしくみを知る、創る、広げる！
2017	みんなで取り組む健やかな骨へのアプローチ
2018	支えよう・育てよう‘当事者’と共にある運動器看護
2019	伝わっていますか？運動器の外傷後を支える看護

り、この制度が十分活用されているとは言い難い。また、研究支援委員会による研究支援窓口の開設、学術集会における研究相談コーナーの開設、さらに、学術集会の際の、エントリーサポートなどの支援を行っており、少しずつこれらの制度を活用する会員も増えてきている。このように、当学会では、主に臨床看護師へ向けた研究支援を行っている。

看保連に所属していることを前述したが、学術的根拠に基づいた適正化した報酬体系の促進が看保連のミッションの1つである。当学会も、看保連に所属する学会の一つとして、診療報酬や制度の在り方検討にむけた要望書の提案に関わる活動を行っている。運動器看護の領域での、診療報酬改定に向けた研究課題の明確化、基礎研究の着手など、看護実践質向上委員会を中心に取り組んでいる。

3. 学会認定運動器看護師制度

当学会の特徴の一つとして、学会認定運動器看護師制度があげられる。この制度は、運動器看護の分野において、熟練した看護知識及び技術を用いて、水準の高い看護実践を行える者を育成し、実践の場における看護の質の向上を図ることを目的としている。日本運動器看護学会が、審査・認定する独自の資格である日本運動

器看護学会認定運動器看護師（略称：学会認定運動器看護師（Japan Society for Musculoskeletal Nursing Certification：JSMNC 以後 JSMNC）の役割は、1. 運動器の障害に関する専門知識に基づいて的確にアセスメントし、専門的な技術に基づいた看護の実践を行う【実践】。2. 運動器の障害を抱える患者のQOLを高めるために、必要な職種と連携を図り、患者・家族を指導しサポートする【連携】。3. 運動器看護に関わる看護師に対して、教育・指導を行う【指導】。の3つである。

学会員であることに加え、看護師としての実践5年以上、運動器の障害に関わる領域での実務経験3年以上、育成講座の受講による500ポイント獲得により（表4）、申請手続きができ、認定試験を合格した場合に、JSMNCとして認定される。なお、育成講座の受講による500ポイントは、表5による承認基準によりコース受講と同等とみなされる。また、5年後には資格更新手続きをする必要があり、そのために活動ポイントを300ポイント獲得する必要がある。

JSMNCの誕生から7年が経過しており、1期、2期の資格取得者は1回目の資格更新手続きをおこなった。現在ではJSMNCは185名にのぼり、これは全会員の3分の1弱であり、学会員の3名に1名はJSMNCである。近年、こ

表4 育成講座内容と獲得ポイント数

コース名	講座名	ポイント	
Ⅰ. 学会認定運動器看護師基礎コース (4講座)	1. 学会認定運動器看護師の役割と機能	20P	
	2. 患者のQOL向上のための多職種との連携	20P	
	3. 患者・家族看護における倫理的課題と対応	20P	
	4. 看護実践事例の特徴と事例検討の方法 (事例報告論文作成方法を含む)	40P	
Ⅱ. 臨床看護基礎コース (診断・治療5講座、看護5講座)	5. 中枢神経・末梢神経障害と治療	20P	
	6. 関節機能障害と治療	20P	
	7. 骨折・外傷と治療	20P	
	8. 手の機能障害と治療	20P	
	9. 小児運動機能障害と治療	20P	
	10. 成長発達と運動機能障害に合わせた看護	20P	
	11. 運動器疾患の急性期の看護	20P	
	12. 中長期の運動制限とADL障害に応じた看護	20P	
	13. 運動器の痛みを抱える患者への看護	20P	
	14. 高齢者の運動機能障害に合わせた看護	20P	
	Ⅲ. 臨床看護実践コース (1講座)	15. 運動機能障害に合わせた援助技術	120P
	Ⅳ. 看護実践事例報告コース (1講座)	16. 運動器疾患患者への看護実践事例報告	80P

の資格取得を目的に入会する例も増えてきている現状がある。

Ⅲ おわりに

2000年に発足した日本整形外科看護研究会が2011年に改組・改称されて日本運動器看護学会となった。日本運動器看護学会としての歩みは10年目を迎えようとしている。運動器看護の特徴は、小児から高齢者までの幅広い発達段階、さらに、急性期、回復期、慢性期、終末期のいずれのステージでも注目することができる。また、看護の場としても、医療施設から、療養施設、福祉施設、地域、在宅と幅広く、あらゆるところに運動器看護が存在すると考えられる。当学会が運動器看護の向上に寄与していくためにも、小児の、高齢者の、在宅における等々、

運動器看護に関連する研究の発表の場としては是非とも当学会へのご参加を期待したい。

ちなみに、第20回日本運動器看護学会学術集会は、2020年6月6・7日に大阪国際交流センターにて開催予定であり、筆者が大会長を務める第21回日本運動器看護学会学術集会は2021年6月5・6日に、はまぎんホール・ヴィアマーレ（横浜市）にて開催予定である。

参考資料

一般社団法人看護系学会等社会保険連合ホームページ：<https://www.kanhoren.jp/>（検索日：2019.11.10.）

一般社団法人日本看護系学会協議会ホームページ：<http://www.jana-office.com/>（検索日：2019.11.10.）

表5 育成講座の該当ポイント獲得の承認基準

コース	承認基準
I. 学会認定運動器看護師基礎コース	看護系大学の修士課程修了生については、「学位取得証明」の提出をもって獲得とする。
II. 臨床看護基礎コース	日本整形外科看護研究会第8回学術集会～第11回学術集会、日本運動器看護学会学術集会（第12回以後）の基調講演、教育講座、シンポジウム等は、各10P相当とし、「育成講座該当学会等参加報告書」および「参加証明書」の提出をもって獲得とする。 本会地区研修会のうち参加証のある研修会は、各10P相当とし、「参加証明書」の提出をもって獲得とする。平成19年～23年開催の研修会は、10年間有効とする。平成24年以後は、5年間有効とする。
III. 臨床看護実践コース	これまでの学会開催の企画で認められるものはない。
IV. 看護実践事例報告コース	日本整形外科看護学会誌を含め、査読のある看護系学会誌での「事例への援助」が内容に含まれている掲載論文は、掲載論文の提出をもって申請し、認定審査委員会で認められれば、獲得とする。

日本運動器看護学会ホームページ：<https://jsmn.jp/>（検索日：2019.11.10.）

日本運動器看護学会（2019）：日本運動器看護学会誌，14号.